

③個人追究:図や式を用いて70÷30の計算方法を説明する。

②学習課題:10をまとまりとして，70÷30の計算方法を考え，図や式で説明しよう。

②見通し:わり算の式で計算すればよさそうだ。

→70÷30は，10をまとまりとして考えれば計算できそう。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・2桁÷1桁，3桁÷1桁の筆算の計算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10のまとまりで考えると，80÷20は8÷2に置き換えて計算できることを学習している。

≪学習問題≫

70円で，1こ30円のクリップは何こ買えて，

何円あまりますか。

教材研究ノート№4-A-5

④共同追究前半（解法の比較検討）

「考え方の共通点や違いは何だろう？」

→「みんな70÷30の計算を，10をまとまりとして計算している。」

「7÷3＝2 …1のあまりの1は，もとの計算にもどすと，そのままなのか，10倍して10にするのだろうか。」

④共同追究後半（思考を深める）

「商の2は10倍してもどさないのに，どうしてあまりは10倍してもどすのだろうか？」

→「もどさないと30×2＋１＝61で，もとの70にならない。」

「商は，70円の中に30円のまとまりがいくつあるかということだからそのまま。あまりはお金だからもどす。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・何十÷何十の計算では，10をもとにして１けたの計算に直して求められる。商はそのままだが，あまりは10倍してもどす。

⑥定着･活用問題

次の計算の間違いを直しましょう。

(1) 90÷40＝2 …1　　(2) 80÷50＝10 …30

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・本時に至るまでに，既習の学習（2桁÷1桁，3桁÷1桁の筆算の計算，80÷20は8÷2に置き換えて計算すること等）を復習したり，学習のまとめを教室内に掲示したりしておきたい。

・数の形式的な操作だけにならないように，お金の模型などを用意し具体物を使って追究することを通して，10のまとまりを説明する活動を大切にしたい。